

多角的な視点で物事を見る

「この仕事は、これまでとは違う。毎日同じようなことを繰り返す』『この仕事は、これまでとは違って、感じたりの感覚が鈍っている。自分。』

半世紀以上歳を重ねたお母ちゃん、私、もしかすると多くの刺激や気づきを得るチャンスを感じていたり、感じたりの感覚が鈍っているのかも・・・。

先日、市職員研修で「気づき」をテーマに学ぶ機会があった。今まで真剣に考えて来なかった物事をちよつと視点を変えて新鮮な気持ちで考え、向き合う時間が持てた。

『「同じである」ではない』『当然だー』と思っていたのは、あくまでも自分にとっての常識。多角的な視点で物事を捉える・・・というのは、自分の立ち位置から離れ、違う人間や立場になったつもりで物事を見ることが大事なんだと改めて考えさせられたと同時に、「これまでの固定観念を払拭できた良い空間であった。

難しそう・・・と敬遠されがちな人権問題も同じだ。少し目線を変えただけで日常生活の中の『世間体』とか『しきたり』また『他の人がみんなそうしているから』というような事に、自分の考えや行動が流されてしまわないよう戒めたい。

「これまで養われた根拠のない自分の『目線』や『価値観』からも解放される日が近い・・・と未来の自分に期待したい。

